

## 町長との行政懇談会 質疑応答

日 時：平成 24 年 11 月 15 日（木） 午後 7 時～午後 8 時 45 分

場 所：津柳地区コミュニティセンター

対 象：奥山・小菘地区

参加人員：7 人

Q：山南 3 線の道路の拡幅は 20 年ほど前からすると言っているが、今現在 6 割も終わっている感じはしない。いつまでにどうするのか、予定はあるのか。

A：県道なので、町は県に強く要望を続けていくしかない。また、経済効果の観点からどうしても後回しにされてしまう。県の財政状況も悪く、公共投資は 3 分の 1 になっているため、まだ 20 年くらいはかかるのではないだろうか。

Q：野菜を作ってもイノシシやサルに食べられるのでやらない。鳥獣対策を町で何とかお願いしたい。

A：鳥獣対策は個人でなく、地域ぐるみでやらないと効果がない。県全体で取り組みを考えなければいけない。

Q：防災倉庫に発電機があるが、ガソリンが 20 リットルしか備蓄されていない。これでは一晩も持たないと思う。せめて一晩しのげるよう備蓄すべきだと思う。

A：防災倉庫の備蓄物資は地元消防団と話し合いをした上で備えている。ガソリンは危険物で、高温となる備蓄倉庫には大量に備えることはできない。ただ、地元消防団も 20 リットルのガソリンを備蓄しているので、それでも足りない場合は消防団がもう少し備えるようにしても良いかもしれない。また、資機材の定期的な点検もして、使える状態であることの確認もしていきたい。

Q：圃場整備地でもイノシシの被害が深刻である。あらゆる方法を試みたが、はじめは効果があってもイノシシもどんどん賢くなっていき、効果がなくなる。今のところ、メッシュを施すのが最も効果があるようだ。ただ、個人で策を打っても他から侵入してくるので、広範囲で実施し、援助してもらえるようにしてほしい。

A：広範囲で実施すると町単独では財政負担が大きいので、県の制度に則ってやらないといけない現状である。ただ、非常に深刻な問題のようなので、何とかしないとけない。

Q：イノシシ対策としての予算はいくらぐらいなのか。イノシシ対策は柵囲いしかないと思うので、予算額を拡大してほしい。

A：総事業費が概ね 160 万円である。来年度予算は今日のことを考慮の上検討したい。

Q：役場の受付係は 2 人も要らないような気がする。人件費の無駄を省いてはどうか。

A：受付係を置いたことで、住民への対応能力が向上した。ただ、人数の指摘は少なからずあるので、来年度の人数は検討しようと思う。

Q：堂ヶ平集落は避難場所が旧神山小・中学校だが、高齢者は遠くて危なくて行けない。道路が寸断される可能性もある。集落の集会場で避難できるようにしたい。

A：公共施設を避難場所としている理由は、避難が長期化したときに、そこに居る職員が役場（災害対策本部）と連絡を取ることで、食料や毛布を持って行けるからであり、集落の集会場ではそれができない。集会場で避難するとなれば、原則は自主防災となる。ただ、長期化したときには役場と連絡を取り合う体制を考えても良いかもしれない。